

災害対策機能も併せ持ち地域の交流・発信拠点を支える直売所！！

道の駅「美濃にわか茶屋」

<事業者の概要>

- ・所在地 : 岐阜県美濃市曾代2007
- ・運営主体 : 株式会社 美濃にわか茶屋(市の委託先)
(注)地元の5団体(市、商工会、JA、森林組合、漁協)の共同出資により設立された第3セクター
- ・取組内容 : 道の駅(農産物直売、地域特産品販売、レストラン、サイクルステーション、防災用備蓄倉庫等)
- ・売上高 : 3億9,200万円(平30年度)
- ・来客数 : 44万人(平30年度)
- ・雇用者数 : 17人(平30年度)(臨時雇用含む)
- ・URL : <http://www.mino-niwakachaya.com/>



店舗外観



野菜、花卉売り場



商品の説明と食べ方の提案

【開設の経緯】

- 地元(美濃市)への出荷意欲の高い生産者が多かった中、県全体で推進した「1市町村1道の駅」構想に乗り、平19年に同市が同社を指定管理者として業務委託する形で農産物直売所等が入った道の駅を開設。
- 当地を選定した理由は、岐阜市方面から国道156線を北上した際、大型車両が最初に立ち寄り、かつ近隣の観光スポットへのアクセスも容易なロケーションであったため。

【特徴的な取組】

- 野菜コーナーは、生産者による自由配置のため、配置が日々異なり、来店客が全ての野菜を一通り目にする効果を発揮。
- 生産者の作業効率の向上や当直売所の効率的な業務運営を図るため、平23年、「美濃にわか茶屋生産者の会」を設立。登録会員(約190名)はPOS配信システムにより、販売状況を定時に(4回/日)把握することが可能。この配信情報を基に追加補充の必要性を判断。
- 商品の品質維持のため、年に3回の農薬講習会を実施。
- 美濃市のみが産地の野菜「仙寿菜」や近隣の植物工場で生産される無菌レタスを扱い、いずれも高い人気。
- 近隣の大学と連携して作成した「健康レシピ」を店内に掲示し、来店客へ提案。
- 毎月1回(4~11月)開催するイベント(例7月:すいか祭り)の情報をWebサイト等で発信し、訪問意欲を喚起。
- 施設は災害対策機能を有し、避難場所として市から指定。登録会員には、災害時の農産物の無償提供を義務付け。

【取組の効果】

- 売上高: 4億1,300万円(平27年度) → 3億9,200万円(平30年度)
- 来客数: 47万5千人(平27年度) → 44万人(平30年度)
- 従業員数: 15人(平27年度) → 17人(平30年度)
- (注)近隣の観光スポットの影響で平28年度に大きな需要の波があったが、その後の観光客の減少に伴い、当駅の利用も一服感あり。

【今後の展望】

- 獣害対策需要としてニンニクの生産に注力中。今後は、商品価値が高い「黒ニンニク」の加工・販売や長良川の生鮎の販売を検討中。
- 敷地内にインバウンド向けホテル(飲食提供なし、共有キッチンのみ設置)がオープン予定(令2年10月)につき、宿泊客の取込みを図る。

